

平成22年度学校評価「浜松市共通項目」(幼稚園)の結果と考察

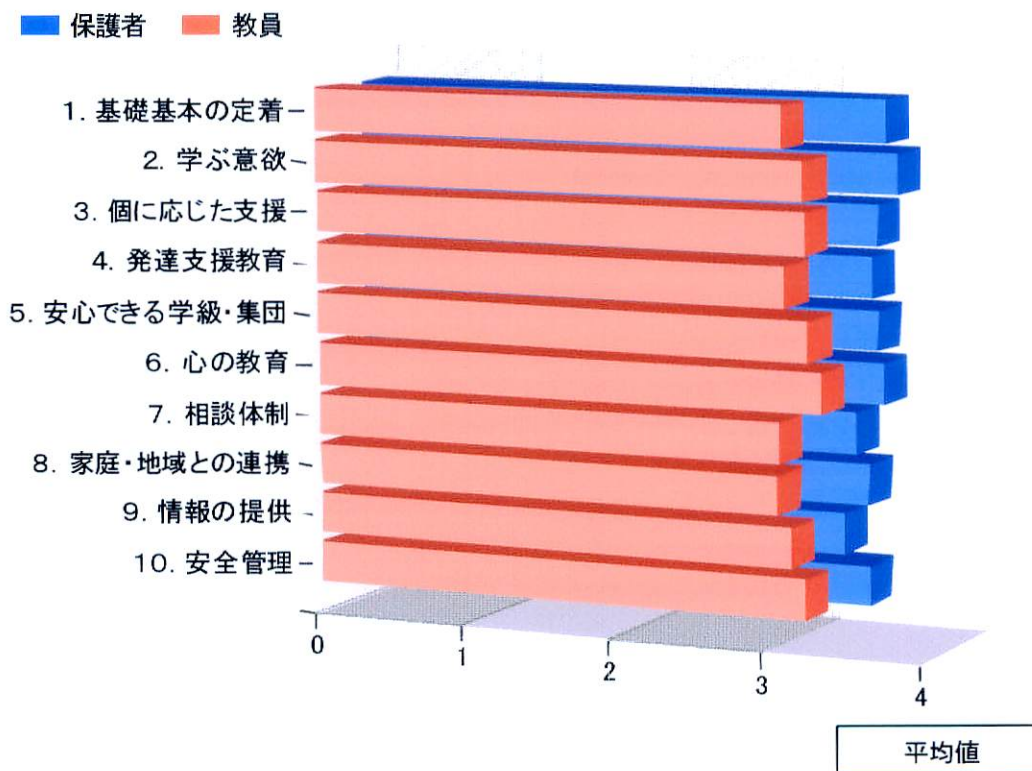
本市では、園評価の「浜松市共通項目」10項目(表1)について、保護者、教員に対しアンケート調査をした。項目ごとに「4 とてもそう思う 3 まあそう思う 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない」の回答を求め、各園からその平均値の報告を受けた。結果を分析し、その考察を示す。

表1:園評価「浜松市共通項目」とその結果

評価項目	保護者	教員
1. 基礎基本の定着	※3.47	3.05
2. 学ぶ意欲を向上させる授業の工夫	※3.54	3.19
3. 個に応じた支援	※3.42	3.20
4. 子ども理解を基盤とした発達支援教育	※3.39	※3.08
5. 安心できる学級・集団づくり	※3.43	3.23
6. 心の教育(生命尊重・規範意識の醸成)	※3.47	3.31
7. 相談体制	※3.30	※3.05
8. 家庭・地域との連携	※3.38	※3.04
9. 情報の提供	※3.23	3.13
10. 安全管理	※3.39	3.22

※は、注目すべき数字

グラフ1:園評価「浜松市共通項目」の調査対象別分布



<保護者のアンケート結果に対する考察>

表1、グラフ1は、平成22年度の「浜松市共通項目」の全体的傾向である。これらから分かるように、保護者はすべての項目で「3」以上を示している。また、表2は、「浜松市共通項目」(保護者)の過去3年間の変化を表したものであるが、これを見ると、多くの項目で数値の継続的な上昇が見られる。これらのことから、保護者の幼稚園教育への

満足度はかなり高いと考えられる。そして、幼稚園の教員が、保育を充実させるために、継続的に努力してきたことが伺える。

さらに、表3は、保護者が「浜松市共通項目」の各項目について、「分からない」と回答した割合を過去3年間に渡って示したものである。すべての項目で「分からない」と回答する割合が減っており、このことから、幼稚園の教員が、子どもや園に関する情報を保護者と共有し、一緒に子どもを育てようとしてきたことが分かる。

本市は、「幼児教育の充実」を人づくりの3本柱の一つとしており、幼稚園の教員が前向きに取り組んできたことによって幼児教育は充実してきていると言える。

表2: 保護者の共通項目平均値の変化(H20年—H22年)

	項目1 基礎・基本の定着	項目2 楽しい保育	項目3 個に応じた支援	項目4 子ども理解	項目5 安心できる学級・集団づくり	項目6 心の教育	項目7 相談体制	項目8 家庭・地域との連携	項目9 情報の提供	項目10 安全管理
H22年度平均値	3.47	3.54	3.42	3.39	3.43	3.47	3.30	3.38	3.23	3.39
H21年度平均値	3.50	3.52	3.41	3.38	3.41	3.47	3.30	3.36	3.23	3.43
H20年度平均値	3.44	3.47	3.40	3.35	3.39	3.47	3.20	3.31	3.24	3.31
上昇傾向		↑	↑	↑	↑		↑	↑		

表3: 各項目で「分からない」と回答した保護者割合の変化(H20年—H22年)

	項目1 基礎・基本の定着	項目2 楽しい保育	項目3 個に応じた支援	項目4 子ども理解	項目5 安心できる学級・集団づくり	項目6 心の教育	項目7 相談体制	項目8 家庭・地域との連携	項目9 情報の提供	項目10 安全管理
H22年度平均値	0.33	0.34	1.21	1.29	0.81	0.73	0.48	0.70	1.45	0.70
H21年度平均値	0.41	0.50	1.25	1.46	1.15	0.78	0.82	1.11	2.09	0.94
H20年度平均値	0.62	0.74	1.54	1.77	1.08	0.98	0.95	1.33	2.02	1.50
改善傾向	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑

<教員のアンケート結果に対する考察>

表4: 教員の評価が低かった項目ワースト3(平均値3未満の割合)

	平均値3未満の項目	割合
ワースト1	家庭・地域との連携	34.3%
ワースト2	相談体制	25.3%
ワースト3	子ども理解	22.4%

表1、グラフ1から分かるように、すべての項目で教員の平均値は「3」以上であり、教員は、自園の保育にある程度満足していることが伺える。幼稚園では、保護者の満足度も大変高く、教員の満足度の高さと相関関係にある。日々の努力が実を結び、保育の充実につながっていることが伺える。

さて、表1の「地域・家庭との連携」「相談体制」「子ども理解」は、それぞれ3.04、3.05、3.08であり、満足度が高いように見える。しかし、その中には、表4にあるようにそれらに不十分さを感じている教員が多いことを見逃してはならない。表4は、平均値3未満の教員の割合であり、これらについてはうまくいっていないと感じている教員が多い。

さらに保育を充実させていくためには、表4にあるような評価の低い項目を課題としてとらえ、その課題を全教員で共通認識し、改善に向けた学校評価に取り組んでいただきたい。

このことにより人づくりの3本柱の一つ「幼児教育の充実」は、さらに前進すると思われる。